

Weekly Report

山梨中央ロータリークラブ

Rotary International District 2620
Yamanashi Chuo Rotary Club 2017-2018

会長 田中 雅貴 副会長 林 美喜枝
幹事 原田 哲 副幹事 田中 雅承
会計 笹本 哲翁 会報 小池 章治

事務所 〒409-3812 山梨県中央市乙黒158-2
(山梨ビジネスパーク(株)カルク 内)

TEL 055-273-5344 URL <http://yamachuo-rc.net/>
FAX 055-273-8010 E-mail rotary@yamachuo-rc.net

【例会日】 毎週金曜日 12:30~13:30
【例会場】 (株)カルク (055-273-5344)

Rotary 



ロータリー：
変化をもたらす

2017~2018 R.I会長
イアン H.S. ライズリー
第2620地区ガバナー 松村 友吉

2017年 10月 22日 第1786回例会

本日のプログラム

子ども絵画展 表彰式例会

会長挨拶

「子どもの名付け」

会長 田中 雅貴

みなさんこんにちは。10月19日に山梨県立美術館で行われました「ふるさとを描く子ども絵画展」の準備をご苦労様でした。今年で29回、来年は30回の節目となります。

今年も多くの子どもたちが参加してくれています。19日から22日の表彰式、25日の最終日片付けまで、ご協力のほどよろしく願いいたします。

さて、毎年この時期になると表彰者の名前の読み方で、事務の山本さんはご苦労されているかと思えます。私自身、今年度は会長として表彰をする立場ですので、名前を読み間違えないか今からひやひやしています。

それにしても、私が子供のころは読み方がわからない子どもは周りにいなかったように思います。

しかし、最近は読み方を聞いてびっくりするようなことが多々あり、学校の先生もご苦労されているに違いないと思います。私にも3人の娘がいますが、まずは読めること、書けること

を最優先して名前を付けました。今であればこだわりのないといわれるのかもしれませんが。

人の名前すら調べなくては読めない、変な時代になったものだとこの時期になるとつくづく思います。

今日の会長挨拶は以上です。

幹事報告

幹事 原田 哲

1. 本日は、早朝より「子ども絵画展」の展示作業にご協力有難うございます。

「展示作業例会」が終わり次第、展示会場当番の方は宜しくお願い致します。

2. 10月20日(金)は「ふるさと絵画展展示例会」の振替休会と成りますので、お間違えの無い様にお願い致します。

尚、10月22日(日)は「表彰式例会」を午後12時より行います。

3. 例会変更のお知らせ

☆甲斐ロータリークラブ☆

11月13日(月)の例会は「地区大会参加例会」の為 日時・会場の変更

日程：11月12日(日)

点鐘：午前8時30分

会場：「焼津文化会館」(焼津市)

11月27日(月)は「特別休会」

前回の例会記録

第1785回 出席報告

会員数	免除	出席者	欠席者	出席率	メイクアップ	前回の修正出席率
11名	0名	9名	2名	81%	5名	100%

届出欠席者 林 美喜枝君 鮎川 一明君

届出失念者 なし

出席免除者 なし

メイクアップ 笹本 哲翁君 鮎川 一明君
林 美喜枝君 竹野 満君
原田 哲君

ビジター なし

備考 初日「子ども絵画展例会」
額掛け作業と例会あり

ニコニコ BOX

● なし

★ 青少年奉仕卓話 ★

「比べるのはきのうの自分(1)」

佐々木 閑先生

日々の暮らしの中、まわりにいる大勢の人々を眺めていると、「こりゃ天才じゃないのか」とびっくりするようすごい人に出会うことがよくある。

自分では「あれもやり、これもやり、できる限りの努力は精いっぱいしている」と思っているのに、そういった限度を軽々と超えて、とてもかなわないような高みにまで上っていく人たち。

「せめてこの分野だけは、誰にも負けないようにがんばるぞ」と思っても、必ずそこには誰か別の、もっとよくできる人がいて、どうしても超えることができない。そういう胸苦しい思いがいつも心の底によどんでいる。

だが考えてみると、そういったうらやましい人たちも、また別の面で自分を他人と比較し、その優劣の中で苦しい思いを抱いているに違いない。皆が天才としてほめたたえる多くの偉人たち、たとえばニュートンやゴッホやアインシュタインといった人たちの人生も、よく見れば数々の苦悩と劣等感の連続である。

もしも人の幸福が「能力差」で決まるのなら、天才が一番幸福になるはずだ。幸福ランキングは天才、秀才、英才、凡人、ぼんくらという順で決定されるはずである。しかし実際は、天才も悩み、秀才も苦しみ、凡人もつらい思いを抱えて生きていく。

「他の人にはできないことができる」という資質は、確かにその人にとっての重要な財産であり、時には人生をより良いものにする手助けにもなるだろう。

しかし、それがそのまま幸せの引換券になるわけではない。能力のあるなしとはまた別のところに、あるべき人生の基準というものが存在する。

それを真剣に、我が身のこととして考え続けたのが釈迦である。釈迦は「能力の有無や、財産・権力の優劣が人の幸福を決めるのではない。もし人が真の幸福を手に入れたいと思うなら、なにを置いても、自分自身のあり方に満足できるような生活を心がけよ」と言った。

人の価値を、「社会の中で立派な仕事をして、皆にほめられる人ほど偉い」という「他者との比較」の中だけで評価するなら、そこには必ず、下の者に対する優越感と、上に対する劣等感の入り交じった、複雑で薄暗い気持ちが起こってくる。それは心の平安を乱す大きな煩惱である。

自分をなにかと比べるのならば、それは外部の誰かではなく、「きのうの自分」でなければならない。毎日一歩ずつ歩む道程の中、「きのうの自分よりも、きょうの自分の方が良くなっている」という思いが積み重なっていく時、その人自身の基準による本当の「人の価値」が見えてくる。それが釈迦の説いた「人の価値基準」である。

(続く)

次回のプログラム 10月25日(水)

子ども絵画展 閉会式例会

於・山梨県立美術館